

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練士学科1年制	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	眼科薬理学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時間	前期 水曜日 1限	教室名	第2合同校舎702教室
担 当 教 員	北野 富美雄				
実務経験とその関連資格	<p>八尾徳洲会総合病院に25年間、薬剤師として勤務。</p> <p>①院内処方箋による外来調剤(外来患者)、入院調剤(入院患者) 眼科において外来患者、入院患者の服薬指導実施 (点眼剤、経口剤の用法、用量、薬理作用 副作用について) 副作用チェック、医師への報告</p> <p>②薬品の品質管理 (麻薬、劇薬、毒薬 冷暗所保存薬 普通薬について厳格な管理)</p> <p>③他職種(医師 看護師 言語聴覚士 作業療法士 視能訓練士)勉強会での薬品情報提供(新薬 副作用)</p> <p>④新薬治験・研究 医薬品の臨床治験の実施基準に従い、新薬の効果、副作用の調査、審査</p> <p>⑤医薬品の再評価・審査 認可された薬品において医薬品医療機器等法に基づく再審査、再評価の実施</p> <p>⑥臨床薬剤師(入院患者対象)に従事。院内臨床カンファレンスでの入院患者服薬状況、副作用の報告 情報提供</p>				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>眼の機能 眼疾患 薬剤機序のメカニズムなどの眼科薬理学の基礎分野を履修する。① 眼科治療薬 ② 眼科検査薬、調節麻痺薬が理解できる。点眼剤のみならず注射、飲み薬など具体的使用法が理解できる。眼科薬理学は視能訓練士の業務に必須であり、薬剤の特性、適応、副作用、禁忌を履修することによって、他の職種と緊密な連携をはかり、チーム医療に参画できる。眼科薬理学は国家試験の出題科目で、視能訓練士の国家試験の合格にも寄与できる。</p>					
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>小テストと本試験の点数で評価する。小テストは5回目に行う(範囲は 1~4回まで)20%(50点×0.4=20点)。 本試験は1~8回(全範囲)80%(100点×0.8=80点)。 小テストと本試験で(80%+20%=100%)成績評価とする。</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>「視能学 第3版」編集 小林義治 文光堂 2022年 「点眼薬 クリニカルブック」第2版 金原出版株式会社 2020年</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>講義の前後につながりがあるので、前回の国家試験問題を確認してほしい。次回にすることを予習してほしい。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>わからないところがあれば、遠慮なく質問してほしい</p>					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	眼構造、薬物吸収 自律神経 受容体 が理解できる	教科書 配布プリント	眼構造の予習	
	各コマにおける授業予定	眼の構造と薬物の吸収、点眼剤の移行 自律神経 交感神経 αβ受容体 副交感神経 M N受容体 アゴニスト アンタゴニスト 薬物による散瞳 縮瞳 調節系のメカニズムについて学ぶ			
第2回	授業を通じての到達目標	交感神経 アゴニスト アンタゴニストが理解できる	教科書 配布プリント	眼構造、薬物吸収 自律神経 受容体の復習と交感神経刺激剤、遮断剤の予習	
	各コマにおける授業予定	交感神経刺激剤(ジピペフリン フェニレフリン)、交感神経遮断剤α遮断剤(ブナゾシン)β遮断剤(チモロール)αβ遮断剤についての臨床応用 副作用 作用機序 禁忌について学ぶ			
第3回	授業を通じての到達目標	副交感神経 アゴニスト アンタゴニストが理解できる	教科書 配布プリント	交感神経刺激、遮断剤の復習と副交感神経刺激、遮断剤の予習	
	各コマにおける授業予定	副交感神経刺激剤(ピロカルピン)、副交感神経遮断剤 M受容体遮断剤 抗コリン剤(アトロピン シクロペントレート トロピカミド)の臨床応用、副作用 禁忌について学ぶ			
第4回	授業を通じての到達目標	緑内障治療薬が理解できる	教科書 配布プリント	副交感神経刺激、遮断剤の復習と緑内障治療薬の予習	
	各コマにおける授業予定	交感神経刺激剤(ジピペフリン)、交感神経遮断剤α遮断剤 β遮断剤(チモロール)、PG製剤(ラタノプロスト)副交感神経刺激(ピロカルピン)炭酸脱水酵素阻害剤について学ぶ			
第5回	授業を通じての到達目標	小テスト実施 テストの後 抗コリンエステラーゼ剤が理解できる	教科書 配布プリント	小テストに向けての1~4回までの復習	
	各コマにおける授業予定	1~4回までの小テスト30分 テストの後 抗コリンエステラーゼ剤について重症筋無力症治療薬 ジスチグミン エドロホニウム(テンシロン)ネオスチグミンの作用機序、副作用 禁忌について学ぶ			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	抗炎症剤 抗アレルギー剤 ボトックス 白内障治療薬が理解できる	教科書 配布プリント	抗コリンエステラーゼ剤の復習と抗炎症剤 抗アレルギー剤 ボトックス 白内障治療薬の予習
	各コマにおける授業予定	抗炎症剤(NSAIDs ステロイド) アレルギー疾患(抗アレルギー剤 免疫抑制剤) ボトックス(ボツリヌストキシン) 白内障治療薬(グルタチオン) について学ぶ		
第7回	授業を通じての到達目標	局所麻酔剤 蛍光眼底造影剤 角膜保護剤 抗VEGF剤が理解できる	教科書 配布プリント	抗炎症剤 抗アレルギー剤 ボトックス 白内障治療薬の復習と局所麻酔剤 蛍光眼底造影剤 角膜保護剤 抗VEGF剤の予習
	各コマにおける授業予定	局所麻酔剤(リドカイン オキシブプロカイン) 蛍光眼底造影剤 角膜保護剤(ヒアルロン酸 コンドロイチン) ビタミン剤 抗VEGF剤について学ぶ		
第8回	授業を通じての到達目標	感染症 抗ウイルス剤 抗生物質 診断法 horner症候群 adie症候群 国家試験対策が理解できる	教科書 配布プリント	局所麻酔剤 蛍光眼底造影剤 角膜保護剤 抗VEGF剤の復習と抗生物質、抗ウイルス剤 診断法の予習
	各コマにおける授業予定	感染症 抗真菌剤(ピマシリン) 抗ウイルス剤(アシクロビル) 抗生物質(ペニシリン アミノグルコシド セフェム系) 診断法( horner症候群 Adie症候群 ) 国家試験対策について学ぶ		
第9回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			